

# 西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.57 2010年5月号

先日、研修で東京に行ったときの事です。研修会場となった施設に、「相田みつを美術館」があり、研修開始まで時間があつたので入ってみました。美術館は作品を見るのに1時間、その後、考えにふけるのに1時間、の計2時間をすごせるように作られているそうです。研修時間の関係で2時間すごすことはできなかったのですが、1時間半ほどいて日めくりカレンダーをたくさん買ってきました。

相田みつをさんといえば、以前この「毎日楽しく」で、「しあわせはいつも自分の心が決める」ということばを紹介したことがあります。しあわせというのは、お金があるからとか、地位があるからといった何か基準があるようなものではなく、自分がしあわせだと思えば、いつでも、どんな状態でもしあわせになれるというものです。仏教の考えをベースにした相田みつをさんのことばには心をうつものが数多くあるのですが、今回は以下のことばをご紹介します。

うばい合えば足らぬ  
わけ合えばあまる  
うばい合えば憎しみ  
わけ合えば安らぎ

読んだままの意味で、考えれば誰でもわかることですが、なかなか実践するのは難しそうです。実際、戦争を含めた世の中の争いごとはうばい合いから起きることが多そうです。うばい合うのは人間に「欲」があるからですが、この欲もまったくないと人間は生きていけません。これは食欲がないと生きていけないことを考えれば明らかですが、問題は、その欲が「過ぎる」ことのように。生きていくのに必要最低限のものを得ようとすれば、わけ合う場面が増えそうですが、それ以上のものを得ようとすると、とたんにうばい合いになりそうです。

会計事務所の仕事をしていると、この言葉を意識する機会がよくあります。特に、相続や事業承継のお仕事などで、仲の良いご家族やご親戚の関係が悪くなるのを見るのはつらいものです。

